

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 49週 > 感染性胃腸炎、水痘 - 定点当たり報告数は10週連続で増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 感染性胃腸炎 > 第49週の全国定点からの報告総数は38,604 (定点当たり報告数12.79)
< 細菌性赤痢 > 都道府県別報告数地図



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - 感染性胃腸炎 / 流行性角結膜炎



速報
P.6-8

仙台市における12月初旬のB型インフルエンザウイルスの分離 / 炭疽菌の各種抗菌薬に対する薬剤感受性試験



海外感染症情報
P.9

ガボンでエボラ出血熱患者発生 - 更新 / 世界ラジコン飛行機選手権大会(米、カリフォルニア州)の参加者に発生したコクシジオイデス症



感染症の話
P.10-12

梅毒
世界中に広く分布している疾患で、日本では1987年の流行後報告が減少しているが、今後とも楽観はできないものと思われる



読者のコーナー
P.13



グラフ総覧(49週)
P.14-20



49週のデータ
P.21-28



発生動向総覧

第49週コメント 12月14日集計分

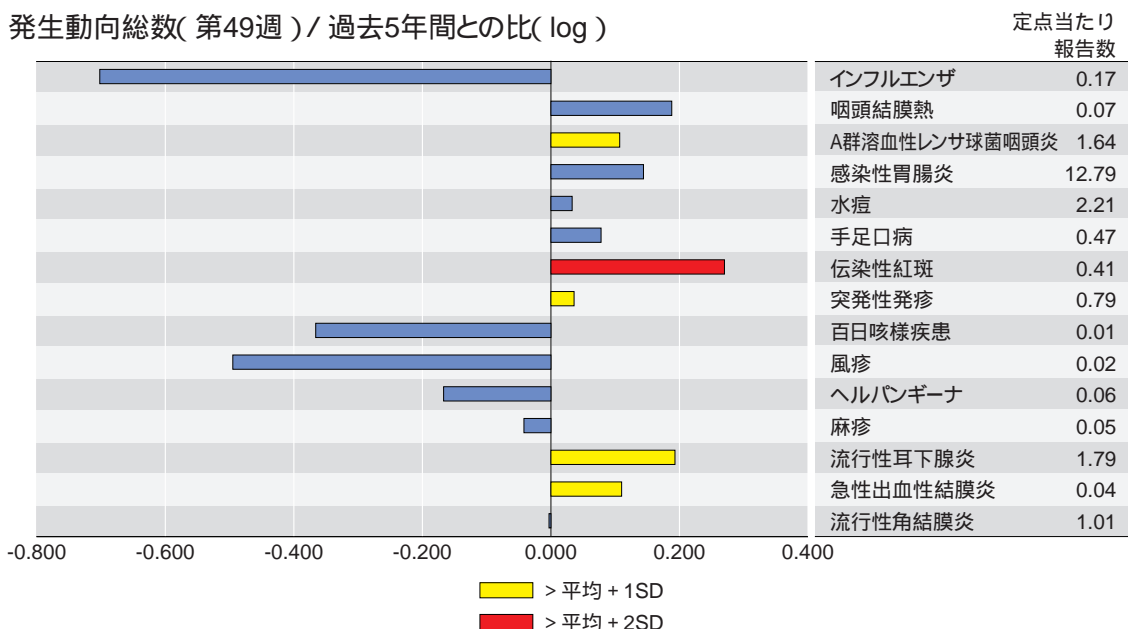
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
 - 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: タイ)、細菌性赤痢92例(推定感染地: 国内79例、不明5例、韓国3例、ベトナム2例、フィリピン、マダガスカル、インド各1例。国内感染例の都道府県別報告数は、4ページ「注目すべき感染症」を参照。)
 - 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症23例
 - 4類感染症: アメーバ赤痢4例、エキノкокクス症1例(北海道、多包条虫)、クロイツフェルト・ヤコブ病4例(すべて孤発性)、ジアルジア症2例、ツツガムシ病16例(うち宮崎県からの報告7例)、デング熱1例(推定感染地: インドネシア)、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例(本例はその後の調査で褥創部培養からのvanC型であったことが確認されたため、報告が取り下げられる予定)
 - 急性ウイルス性肝炎5例
 - A型1例
 - B型3例_感染経路: 性的接触1例、不明2例
 - その他のウイルス1例
 - 後天性免疫不全症候群12例(AIDS 2例、無症候性キャリア9例、その他1例)
 - 感染経路: 性的接触10例(同性間7例、異性間2例、同性/異性間1例)、不明2例
- 第48週に神奈川県から報告されたバンコマイシン耐性腸球菌感染症症例は、診断基準を満たしていないことが判明したため、報告が取り下げられた。

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は年末のピークに向け患者報告数の増加が見られている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、山形県で定点当たり報告数7.2と多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、宮崎県(26.8)、大分県(25.5)、熊本県(23.2)、福岡県(18.6)など九州地方で多くなっている(感染性胃腸炎の詳細な情報については、4ページ「注目すべき感染症」参照)。水痘の定点当たり報告数が多くなっているのは鳥取県(4.2)、福井県(4.1)などである。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較するとかなり定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(7.7)、長野県(6.3)、沖縄県(6.3)などである。流行性角結膜炎は、宮崎県で定点当たり報告数3.5と報告が多くなっている。

発生動向総数(第49週) / 過去5年間との比(log)

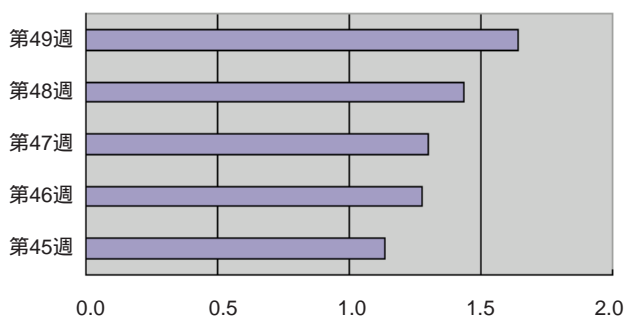


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

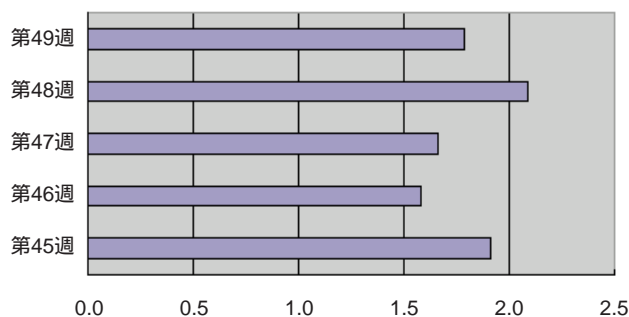
最近の注目疾患－5週間の動き

感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は10週連続で増加している。例年は年末の49～51週にピークを迎える。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎も、ここ5週では全体として増加傾向にある。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は前週より減少した。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は前週より減少したが、昨年、一昨年に比べると定点当たり報告数の多い状態が続いている。

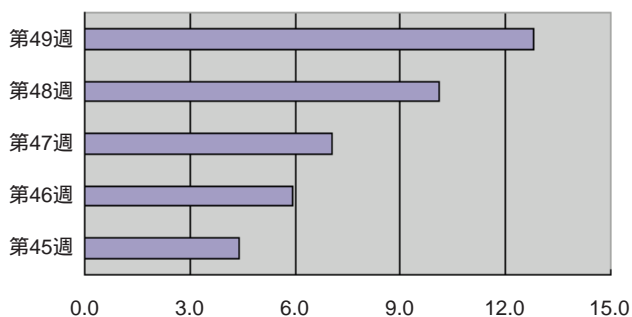
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



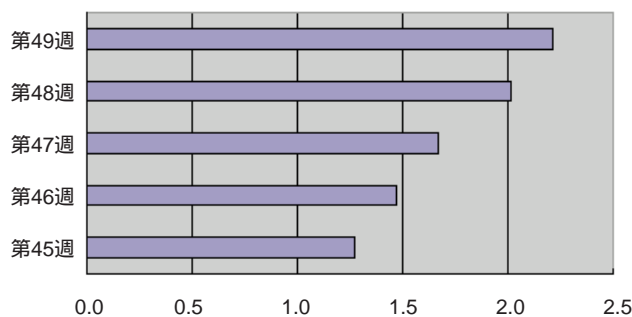
流行性耳下腺炎



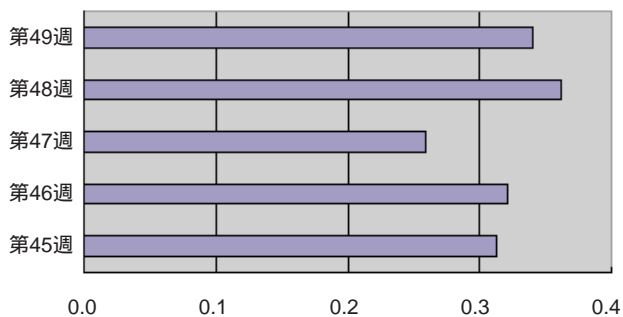
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



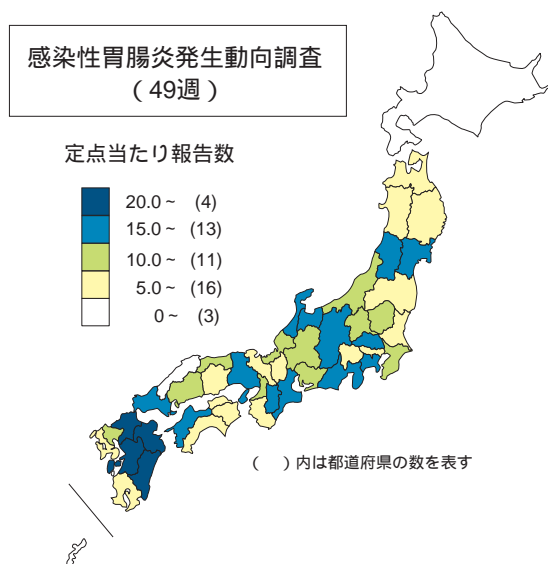
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

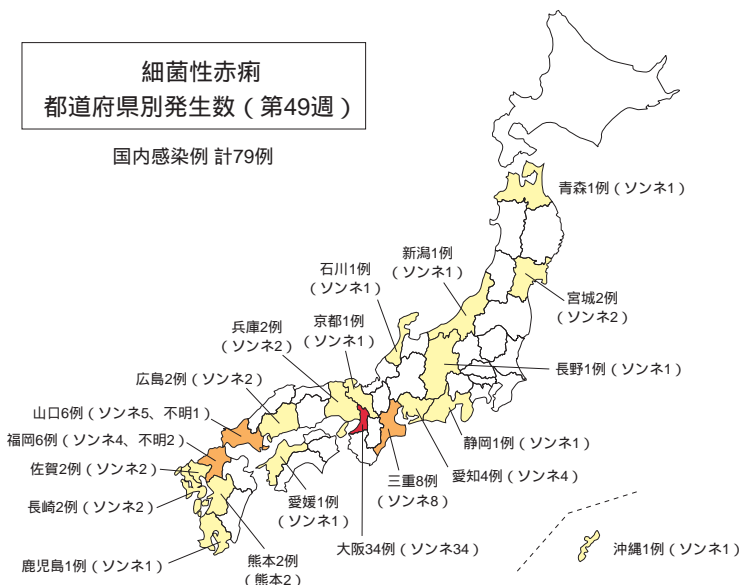
感染性胃腸炎流行状況

今シーズンの感染性胃腸炎は第39週より患者報告数が徐々に増加し始め、第45週～49週には急増している(15ページ感染性胃腸炎グラフ参照)。第49週の全国定点からの報告総数は38,604(定点当たり12.79)となっている。定点当たり報告数が多くなっている都道府県は宮城県(26.8)、大分県(25.5)、熊本県(23.2)、福岡県(18.6)、三重県(19.5)、山口県(18.5)、長野県(18.2)などである。病原体検出情報事務局には、すでにSRSVおよびロタウイルスの検出情報が寄せられている(ウイルスの検出情報については5ページ参照)。



細菌性赤痢

国内感染例の都道府県別報告数を地図に示す。





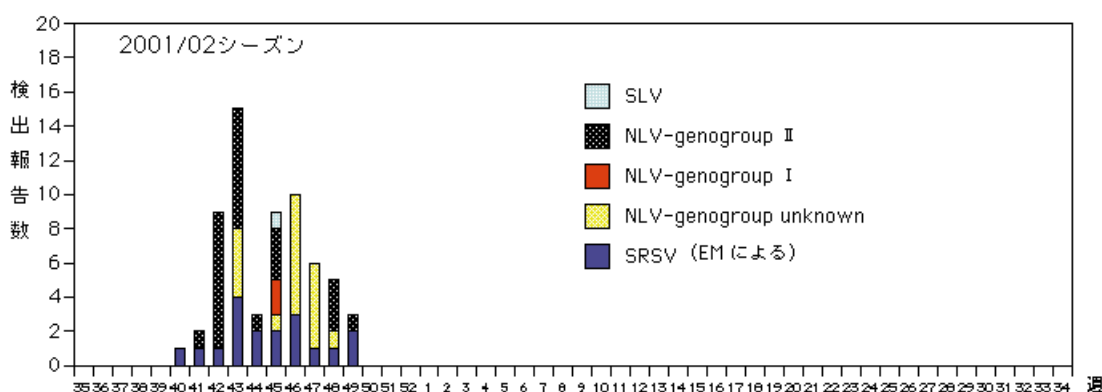
病原体情報

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年12月14日現在報告分)

感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSV検出として、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが24件(大阪市17、岩手県4、愛知県2、東京都1)、NLV genogroup unknownが18件(新潟県10、秋田県8)、NLV genogroup Iが2件(秋田県、石川県各1)、サッポロ様ウイルス(SLV)1件(岩手県1)、電顕による検出16件(愛媛県9、北九州市4、栃木県3)の報告がされた。また、A群ロタウイルスの検出として、東京都2件(第41、44週)、大阪府1件(第48週)、新潟県2件(第50週)が報告されている。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン (病原微生物検出情報：2001年12月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。

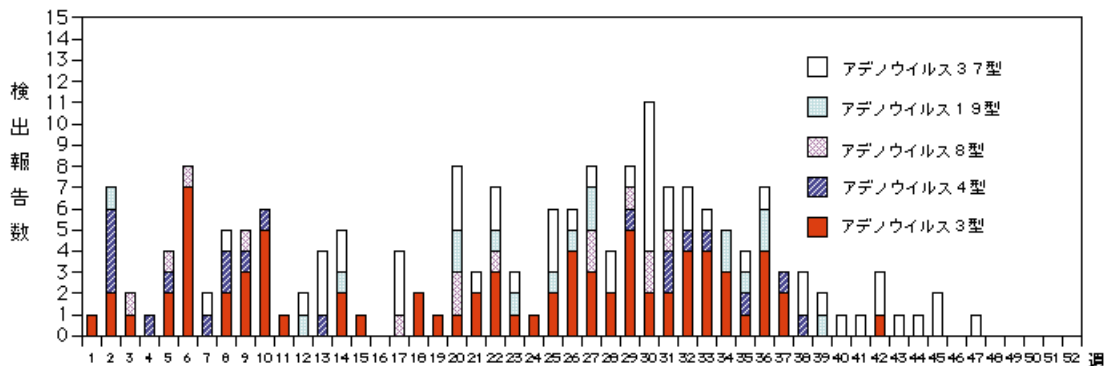


流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型77件(香川県24、札幌市17、愛知県13など)、37型52件(熊本県19、札幌市16、岡山県8など)、4型20件(札幌市11など)、19型17件、8型14件、2型3件、5型2件、6型1件である。第1四半期には主に3型および4型の分離が報告され、第2四半期には37型および8型、19型の分離も報告されるようになり、第3四半期には3型と37型を中心に報告が増加した。第4四半期に入って3型は減少しているが、37型は依然として報告が続いている。

週別流行性結膜炎患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年

(病原微生物検出情報：2001年12月14日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





仙台市における12月初旬のB型インフルエンザウイルスの分離

仙台市の呼吸器系感染症症状を示した患者から2001年12月3日に採取された臨床検体より、B型インフルエンザウイルスが分離されたので報告する。

概要: 患者は仙台市内のA病院に整形外科疾患で入院中の67歳女性であり、12月2日に37 度の発熱、頭痛、強い咳を主訴として発症し、その翌日も38 度の発熱と頭痛、強い咳症状が続き、同病院呼吸器内科を受診し、そこで上気道炎の診断を得ている。

この患者についてインフルエンザを疑い、同日咽頭ぬぐい液を採取、そのぬぐい液は翌日まで4 日で保存された後、国立仙台病院ウイルスセンターにて培養細胞(HEp-2、Human Embryo Fibroblast、MDCK、VeroおよびHMV-II細胞)に接種された。これらのうちMDCK細胞に接種後2 日目に強いICPEが出現したため、この培養上清について七面鳥赤血球を用いた赤血球凝集反応を行ったところ、十分なタイターが確認されたので、これを材料に、国立感染症研究所より分与された2000/01および2001/02シーズン検査キットのフェレット抗血清を用いて、赤血球凝集阻止試験を行った。その結果、抗A/Moscow/13/98(H1N1)、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1)、抗A/Panama/2007/99(H3N2)および抗A/Sydney/5/97(H3N2)血清にはいずれもHI価10以下と反応性を示さなかったが、抗B/Yamanashi(山梨)Y166/98、抗B/Shangdong(山東)Y7/97、抗B/Akita(秋田)Y27/2001、抗B/Johannesburg/5/99血清(いずれもモモHI価640、40、160、640)に対する反応性は、それぞれ40、<20、20、80～160であった。この結果、同分離ウイルスはB型インフルエンザウイルスであると同定された。

その後同患者はノイラミニダーゼ阻害剤の投与を受け、熱は36 度以下になり、頭痛、咳も治まり現在に至っている。入院患者に初発のインフルエンザ感染者が出た同病院では、院内感染対策委員会を中心に、周囲に感染が広がらないよう警戒し、患者の個室管理など種々の措置、工夫を行い、また院内サーベイランスを強化しているところである。

考察: 仙台市においては、本年10月5日の検体からインフルエンザA(H3)型ウイルスが分離されている(IASR Vol.22、No.11参照)。その後これまで、これに続くインフルエンザウイルス分離はされていなかった。しかし、その間も発熱・咳など呼吸器症状を主訴とするカゼ様患者が多発しており、当ウイルスセンターによるウイルス分離の仕事から、これらの多くあるいは一部は、パラインフルエンザ1型ウイルス感染、およびエンテロウイルスによるものであった可能性が強く示唆されている(IASR Vol.22、No.12掲載予定)。しかし、当該患者は整形外科に長期入院しているため、今回の感染は、明らかに病院外から院内への持ち込みによるものと考えられ、仙台市あるいはその近郊で、B型インフルエンザ流行が始まっている可能性を示唆するものである。

一般的には、B型インフルエンザの流行はシーズンの後半という印象がある。当ウイルスセンターのウイルス分離に基づく資料によれば、過去16年間、仙台市でこの時期にB型インフルエンザウイルスが分離されたことはない。しかし、1985年の場合、年明け早々B型ウイルスの分離が相次ぎ、その後流行期を通してB型ウイルスの流行があった。また、山形市での成績においても、1988年に同様の傾向が見られている。さらに、前年11月、12月に分離が相次いだ1993、95年にも年明けからB型の流行が始まり、シーズンを通してインフルエンザ流行の半分以上を占めていた。今回のこの時期の分離が今シーズンの先駆けであるか否かは、現時点でははっきりしないものの、今後B型の流行の動向には注意が必要と思われる。

今回の病院外から院内への持ち込みによる病棟内での散発的な発生は、今後、インフルエンザシーズンに向け、病院あるいは老人施設などでの、持ち込み感染防止への努力の大切さを再確認させるものとなった。

国立仙台病院ウイルスセンター

近江 彰 岡本道子 千葉ふみ子 伊藤洋子 西村秀一

国立仙台病院呼吸器内科

三木 祐

(IASR2002年1月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

炭疽菌の各種抗菌薬に対する薬剤感受性試験

炭疽の治療にはシプロフロキサシン(Ciprofloxacin)が推奨されている。日本国内では、シプロフロキサシン以外にも様々なニューキノロン系抗菌薬が発売されている。シプロフロキサシン以外のニューキノロン系抗菌薬の炭疽菌に対する抗菌作用を検討するために、炭疽菌を用いて薬剤感受性試験を行った。薬剤感受性試験はEtestを用いて、ニューキノロン系抗菌薬6剤を含む22薬剤に対して行った。菌株は、当研究所に保存してあった炭疽菌弱毒株3株を用いて検討した。MIC($\mu\text{g/ml}$)の結果は以下の通りであった。

Ampicillin	0.032	Norfloxacin	0.5
Chloramphenicol	2	Levofloxacin	0.064 ~ 0.125
Gentamicin	0.125	Azithromycin	1 ~ 2
Kanamycin	1	Cefotaxime	> 32
Streptomycin	1	Sparfloxacin	0.064 ~ 0.5
ST 合剤	2 ~ >32	Imipenem	0.064
Tetracycline	0.032 ~ 0.064	Fosfomycin	32 ~ 64
Nalidixic acid	1 ~ 2	Fleroxacin	0.25
Ciprofloxacin	0.064 ~ 0.125	Penicillin G	0.016
Cefoperazone	0.064 ~ 0.125	Ceftriaxone	> 32
Ofloxacin	0.125 ~ 0.25	Aztreonam	> 256

炭疽の治療に有効とされているシプロフロキサシンのMICは、0.064 ~ 0.125 $\mu\text{g/ml}$ であった。その他、LevofloxacinもMICは0.064 ~ 0.125と低値であった。他のニューキノロン系抗菌薬では、Norfloxacin、Ofloxacin、Sparfloxacin、Fleroxacin でMICが0.25 ~ 0.5と高い株が見られた。ペニシリン系抗菌薬では、Ampicillin、Penicillin GともにMICは低値であった。Aztreonam、ST合剤および第3世代セフェムであるCefotaximeとCeftriaxoneには耐性であった。米国でバイオテロに使われた炭疽菌の各薬剤に対するMICが報告されているが(1)、その値は今回使用した菌とほぼ同じような値を示していた。

ニューキノロン低感受性菌は、腸チフス・パラチフスの原因菌であるチフス菌・パラチフスA菌で治療上の問題となっている(2, 3)。チフス菌・パラチフスA菌のニューキノロン低感受性菌では、各種ニューキノロン薬のMICは0.25～0.5 μg/mlを示し、ニューキノロン薬の投与では治療ができないことが報告されている(2)。米国での炭疽菌のMICについてはシプロフロキサシンの値しか示されていないが、我が国では他のニューキノロン薬が臨床上多く使用されている。今回検討した炭疽菌も、一部のニューキノロン薬に対してはMICが0.25～0.5 μg/mlと高いものがあり、低感受性を示すことが予想される。しかし、MICが0.25～0.5 μg/mlの炭疽菌に対して、生体内でニューキノロン剤は効果があるのか否かは、現在のところデータがないので不明である。また、今回は検討した株数が少ないため、さらに多くの株を使用しての検討が必要である。

参考文献

- (1) Update: Investigation of Bioterrorism-Related Anthrax and Interim Guidelines for Exposure Management and Antimicrobial Therapy, October 2001. MMWR, 50(42): 909-919, 2001
- (2) 足立拓也 増田剛太 今村顕史 味澤篤 根岸昌功 高山直秀 滝永和美 高野さかえ
ニューキノロン低感受性腸チフスの2例 感染症学雑誌 75: 48-52, 2001
- (3) 坂本光男 相楽裕子 ニューキノロン低感受性腸チフスの1例
第49回日本感染症学会東日本地方会抄録 2000年51頁

国立感染症研究所細菌部

広瀬健二 田村和満 寺嶋淳 渡辺治雄

(IASR2002年1月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ガボンでエボラ出血熱患者発生 - 更新

WHO/CSR 2001年12月13日

12月13日現在、ガボン保健省は、出血熱による死亡10名を含む14名の疑い患者(2名は、その後確定診断された)を報告した。MSF BelgiumとEPICENTREから構成されるチームが12月13日 Librevilleに到着し、国際的な専門家らと合流した。

国際流行対策チームは、12月11日にLibrevilleで保健省と合流し、保健省が対応のための組織づくりと役割分担の調整を行うのを支援した。

このチームには、疫学やサーベイランス、患者管理、地域の公衆衛生、保健教育、後方支援、研究のための技術的な小委員会を持っている省庁統合委員会(Comité Politique Interministériel)、全般的調整委員会(Comité de Coordination Generale)、地域委員会(Comité Provincial)および流行に対する技術的科学的調整委員会(Comité de Coordination Technique et Scientifique de Lutte)が参加している。

12月12日にガボンの保健省と軍の職員が参加した専門的な会合が、対策チームとその活動計画や現地で必要な物資と疫学的な書式やデータベースのような手段を準備するために開催された。

ガボンとの国際合同チームは、流行地に行き隔離施設の設置とサーベイランスシステムを遂行するために必要な物資の準備をして現地に向かっている。

更新WHO/CSR 2001年12月16日

12月16日現在、ガボン保健省は、エボラ出血熱による死亡12名を含む15名の疑い患者を報告した。

ガボンとの国際合同チームは、流行地において疑い患者および接触者の追跡調査を積極的に行っている。それに加えて、隔離施設の設置と曝露予防の目的で地域において衛生教育を行っている。

世界ラジコン飛行機選手権大会の参加者に発生したコクシジオイデス症

Eurosurveillance Weekly 2001年12月13日、WHO/CSR 2001年12月12日

過去1カ月間にヨーロッパで2名のコクシジオイデス症患者が診断された。1例目は10月中旬に悪寒と発熱で発症した50歳代半ばのフィンランド人で、その後重篤な呼吸器症状が出現した。2例目は多量の寝汗、咳嗽、発熱、筋肉痛、関節痛および倦怠感で地元の病院に入院した70歳代の男性であった。

2名とも、2001年10月5日～14日に米国カリフォルニア州カーン郡Lost Hill Valleyで開催された世界ラジコン飛行機選手権大会に参加した。選手権大会終了後、2名とも帰国前にカリフォルニア州を数日間旅行した。

カーン郡はコクシジオイデス症の罹患率が高いところである。住民のおよそ30%が血清学的に陽性であることが研究で判明した。選手権の参加者全員に、コクシジオイデス症の項目が入っている簡潔なリーフレットが配布されていた。この選手権は30カ国からの参加チームで競う国際的なイベントである。

註：日本からも21名参加者がおり、健康状態を確認しているところであるが、通常の潜伏期間(10日～1ヵ月)を過ぎた時点で、同症を発症した患者は確認されていない。

コクシジオイデス症についてのさらなる情報は、以下の記事を参照されたい。

"Public Health Dispatch : Coccidioidomycosis Among Persons Attending the World Championship of Model Airplane Flying Kern County, California, October 2001" in the Morbidity and Mortality Weekly Report(MMWR) ,December 14, 2001/50(49) ; 1106-7.



感染症の話

梅毒

疫学

梅毒は世界中に広く分布している疾患である。1943年にマホニーらがペニシリンによる治療に成功して以来、本薬の汎用によって発生は激減したが、その後、各国で幾度かの再流行が見られている。1960年代半ばには日本も含め、世界的な再流行が見られた。最近では、日本では1987年、米国では1990年をピークとする流行が見られたが、その後再び報告が減少している。しかしながら、今後とも楽観はできないものと思われる。

最近の状況については、感染症法の下での感染症発生動向調査によると、1999年4～12月には735例、2000年1～12月には749例の報告がなされている。

病原体

病原体は梅毒トレポネ - マ(学名: *Treponema pallidum* subsp. *pallidum*)で、直径0.1～0.2 μ、長さ6～20 μの屈曲した6～14施転の螺旋状菌である(図1)。通常の明視野光学顕微鏡では視認できず、暗視野顕微鏡で観察される。青い色彩を放つことから *pallidum* (英語のpale)の種名が与えられている。現在、試験管内の培養は不可能で、菌の維持その他には、ウサギの睾丸内で培養する以外に現実的方法はない。培養の困難さもあって病原性の機構は殆ど解明されていないが、哺乳類の培養細胞への接着と侵入能が確認されて



図1.梅毒トレポネーマの電子顕微鏡像(ネガティブ染色)

おり、病原性との関連が議論されている。1998年に全ゲノムのDNA配列が決定、公開され、この接着能を担うと予想される遺伝子群が見つかった。また、多くの菌で病原因子として働くヘモリジンの遺伝子が5コピー発見されたが、実際に病原性に与する証拠はない。

本菌は低酸素状態でしか長く生存できないため、現実には感染形態、経路は限定される。大部分は、菌を排出している感染者(後述の第1期、第2期の患者)との粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるものである。極めてまれには、傷のある手指が多量の排出菌に汚染された物品に接触して伝播されたとする報告もある。輸血による感染は劇的に減少し、近年ではほとんど報告がないが、これは保存血中での本菌の生存期間についての研究が行われ、血液のスクリーニングが進んだ結果である。しかし、第一潜伏期感染者では臨床症状はなく、血清反応も陰性であり、新鮮血を用いた緊急輸血などがそれらのドナーから行われる場合には、感染の可能性はある。これら以外に、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する経路があり、先天梅毒(後述)の原因となる。

臨床症状

感染後3週間程度の潜伏期(第一潜伏期)を経て、経時的に様々な臨床症状が逐次出現する。

第1期梅毒;(～3週)感染部位の病変]初期硬結(赤色)、硬性下疳、局所リンパ腺症(非常に硬性)。

第2期梅毒;(3～12週)血行性に全身に移行]梅毒性バラ疹(体肢対称性)、発熱、倦怠感、リンパ腺症、粘膜疹、扁平コンジローマ、梅毒性脱毛、髄膜炎、頭痛など。この時期の皮膚病変は梅毒に極めて特徴的なものであり、確定診断が最も容易である。

前期潜伏梅毒(1年以内)、後期潜伏梅毒(1年以降);無症状。潜伏梅毒は時に第2期症状の再発を起こすが、その殆どが1年以内であるため、その時期を特に前期潜伏梅毒として区別することが多い。

第3期梅毒;1)心臓血管梅毒;[心血管への移行]〔10～30年、アフリカ人種以外では稀〕大動脈瘤、大動脈弁逆流、冠状動脈口狭窄

2)神経梅毒(変性梅毒);[中枢神経への移行]

A)無症状期:(～2年)脳脊髄液中の白血球数、タンパクレベル上昇などのCSF異常のみの時期。

B)急性梅毒髄膜炎:(～2年)頭痛、錯乱

C)上部神経麻痺:(～2年)顔面、聴覚神経麻痺

D)進行麻痺:(5～7年、男性の症例が有意に多い)頭痛、めまい、人格障害、血管障害など

E)脊髄癆:(10～20年、男性の症例が有意に多いが、ペニシリン治療の普及で現在では稀)進行性痴呆、疲労感、運動失調、脊髄根部疼痛、無反射症、アーガイルロバートソン瞳孔(反射性瞳孔硬直)など。

*D)、E)の時期を特に「第4期梅毒」として区別する研究者も多い。

F)ゴム腫:(～15年)ゴム腫、結節性梅毒疹、などの肉芽腫、単球浸潤

先天梅毒;1)早期先天梅毒(出産後～2年)骨軟骨症、貧血、肝脾腫、神経梅毒症状

2)晚期先天梅毒(2年以降)角膜実質炎、リンパ腺症、肝脾腫、コンジローマ、貧血、ハッチンソン歯、聴覚神経障害(内耳性難聴)、回帰性関節症、神経梅毒症状

病原診断

確定診断の基本は病原体の分離、検出であるが、第1期と皮膚病変のある第2期の場合を除き、かなり困難である。臨床の現場では、臨床症状と血清反応の組み合わせによって診断することが多い。ただし、第1期の症状が現れても血清反応の陽性化まで1週間程度の期間があるので、この時期には下疳などの病巣部から病原体検出を積極的に試みる必要があり、実際検出されることも多い。具体的には、病巣部の浸出漿液をパーカーインキで染色して、顕微鏡観察を行う。

血清抗体は感染後、初めに脂質であるカルジオリピンに対する抗体価が上昇し、次いで *Treponema* に対する特異的抗体価が上昇する。抗カルジオリピン抗体は感染、治癒に応じて比較的良く上昇、下降するため、治療効果の判定にも利用される。しかし、抗原が特異的なものではないため、生物学的偽陽性反応がありうる。一方、抗 *Treponema* 抗体は特異性は高いが、治癒後漸減はしても完全な陰性化は困難なため、過去の梅毒感染との区別がつきにくい。そこで、スクリーニングとして抗カルジオリピン抗体を測定し、陽性であった場合には(場合により期間をおき)、抗 *Treponema* 抗体も測定し、それでも陽性の場合に血清学的確定診断とするのが現実的方法である。

治療・予防

基本的にはペニシリンGの大量投与であり、日本では、ベンジルペニシリンベンザチンの120万単位を2～4週間にわたり内服する方法がよく行われる。また、アンピシリンが使われることもある。米国では筋注が基本であり、神経梅毒の場合には髄液中の濃度を高めるため、さらに5倍量程度のペニシリンを静注、さらに適宜ペニシリン排泄阻害剤を併用している。ペニシリンアレルギーがある場合にはテトラサイクリン、エリスロマイシンを使用するが、これらの薬剤は髄液への移行が悪い。したがって神経梅毒の場合、ペニシリン脱感作を行ってペニシリンを投与するのが勧められる。妊婦に対しても基本的には同様に行うが、胎児への副作用のためにテトラサイクリンは使用しない。妊婦にペニシリン治療を行った場合、新生児は同時に治療できたと考えてもよいが、ア

レルギーのためにエリスロマイシンを使用した場合には、本薬は胎盤を通過できないので、新生児は出産後改めて治療する必要がある。かつて使用されたクロラムフェニコールは、副作用として重篤な血液疾患をひき起こす場合があり、現在は使用されていない。現在のところ、本菌に対する薬剤耐性菌の報告はない。

治療効果の判定には、抗カルジオリピン抗体の減少と臨床所見を経時的に追跡する。抗カルジオリピン抗体の完全な陰性化は起こらないか、仮に起こるとしても長期間を要するので、抗体価の絶対値ではなく、減少傾向があるかどうかをみることが重要である。

予防としては、感染者、特に感染力の強い第1期及び第2期の感染者との性行為、疑似性行為を避けることが基本である。コンドームの使用は効果が高いが、疫学データからすると、淋菌感染症の場合ほどには完全でないことが示唆されている。

感染症法での取り扱い

梅毒は4類感染症全数把握疾患であり、診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出る。届け出の基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって検査所見による診断がなされたもの。

- ・病原体の検出
 - 発疹からパーカーインクなどで *T. pallidum* が認められた場合
- ・血清抗体の検出(以下の(1)と(2)の両方に該当する場合)
 - (1)カルジオリピンを抗原とする以下のいずれかの検査で陽性のもの
 - ・RPRカードテスト
 - ・凝集法
 - ・ガラス板法
 - (2) *T. pallidum* を抗原とする以下のいずれかの検査に陽性のもの
 - ・TPHA法
 - ・FTA-ABS法

無症候梅毒では、カルジオリピンを抗原とする検査で16倍以上陽性かつ *T. pallidum* を抗原とする検査が陽性のもの

先天梅毒は、下記の5つのうち、いずれかの要件をみたすもの

- (1)母体の血清抗体価に比して、児の血清抗体価が著しく高い場合
- (2)血清抗体価が移行抗体の推移から予想される値を高く超えて持続する場合
- (3)TPHA・IgM抗体陽性
- (4)早期先天梅毒の症状を呈する場合
- (5)晩期先天梅毒の症状を呈する場合

以下の4つに分類して報告する

- 1. 早期顕症梅毒
 - ア. I期梅毒
 - イ. II期梅毒
- 2. 晩期顕症梅毒
- 3. 無症候梅毒
- 4. 先天梅毒

(国立感染症研究所細菌部 中山周一)



読者のコーナー

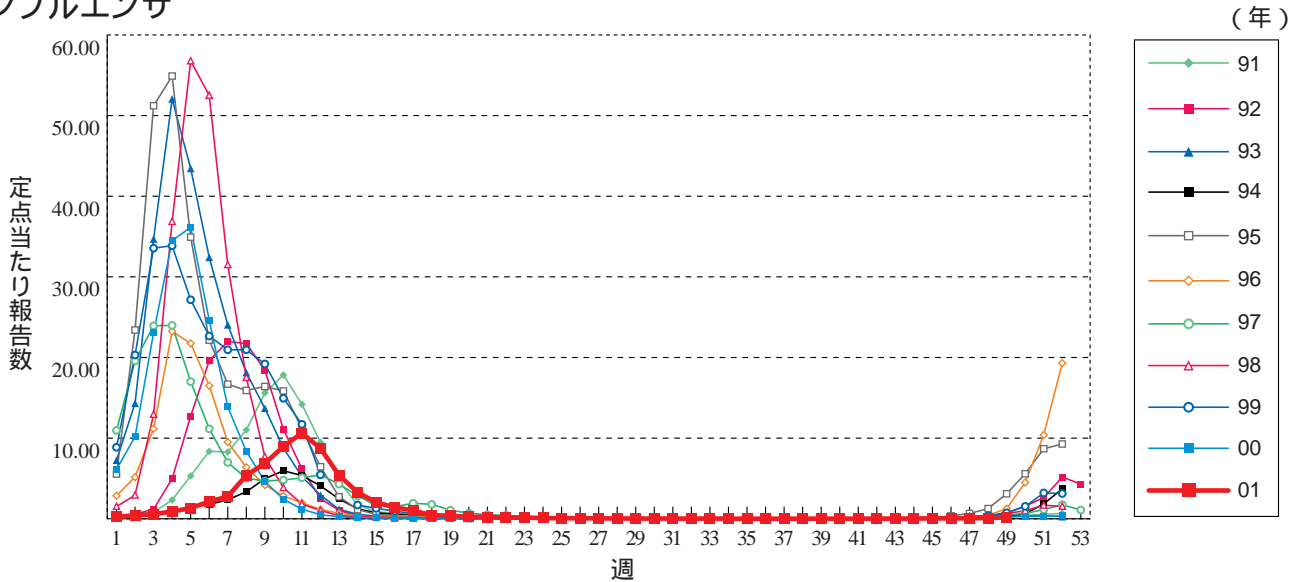
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

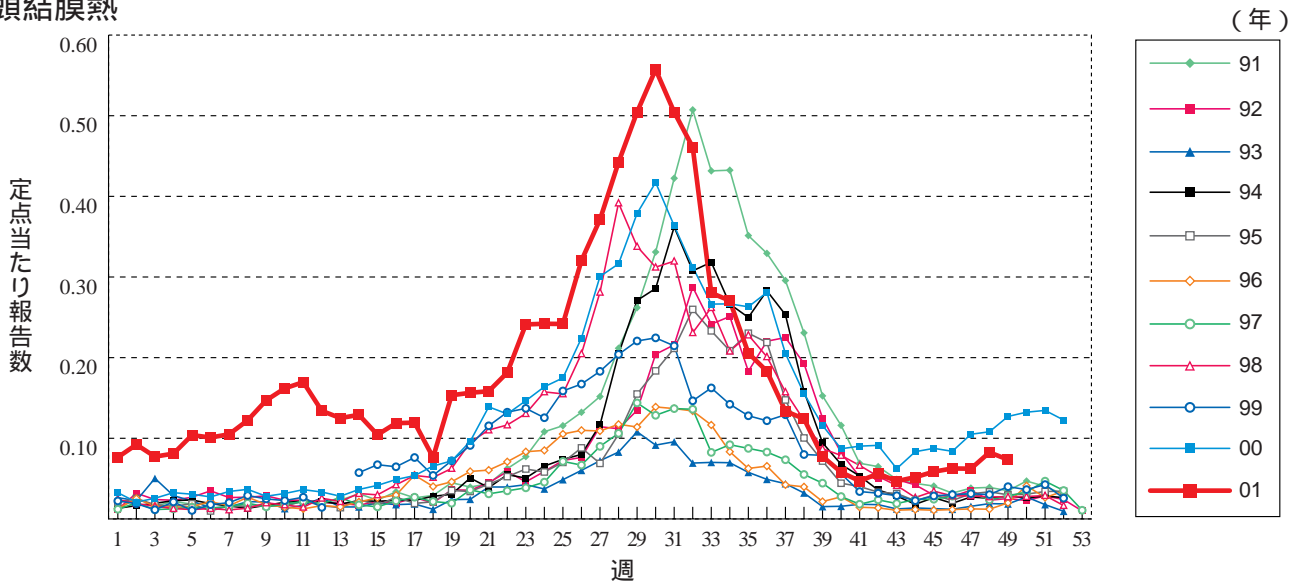


グラフ総覧(49週)

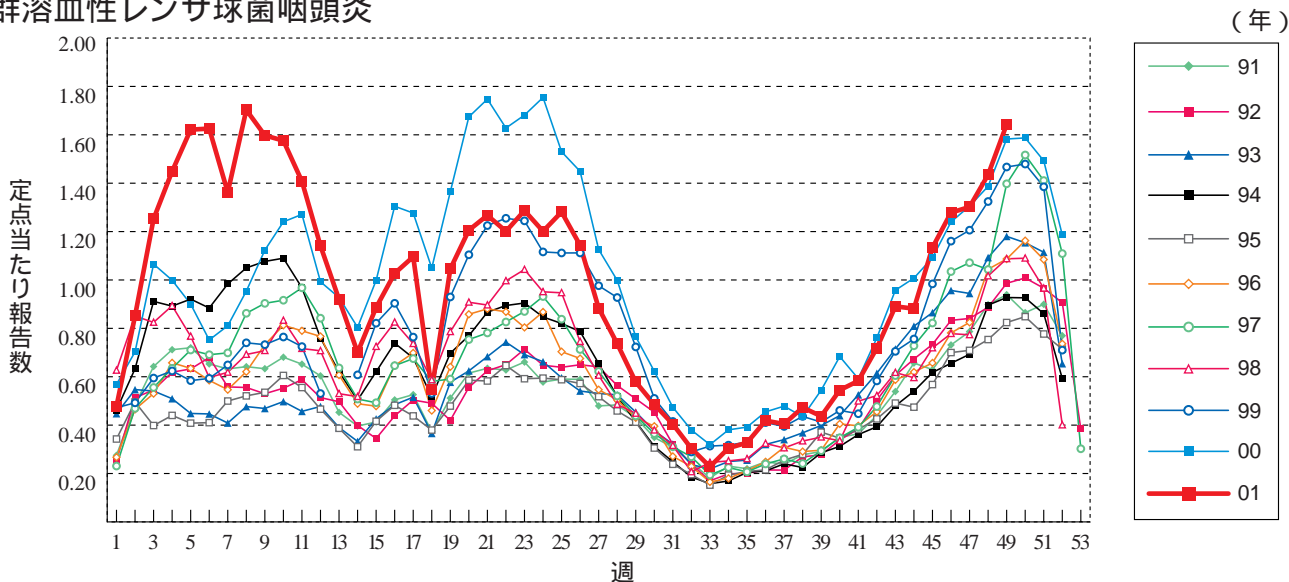
インフルエンザ



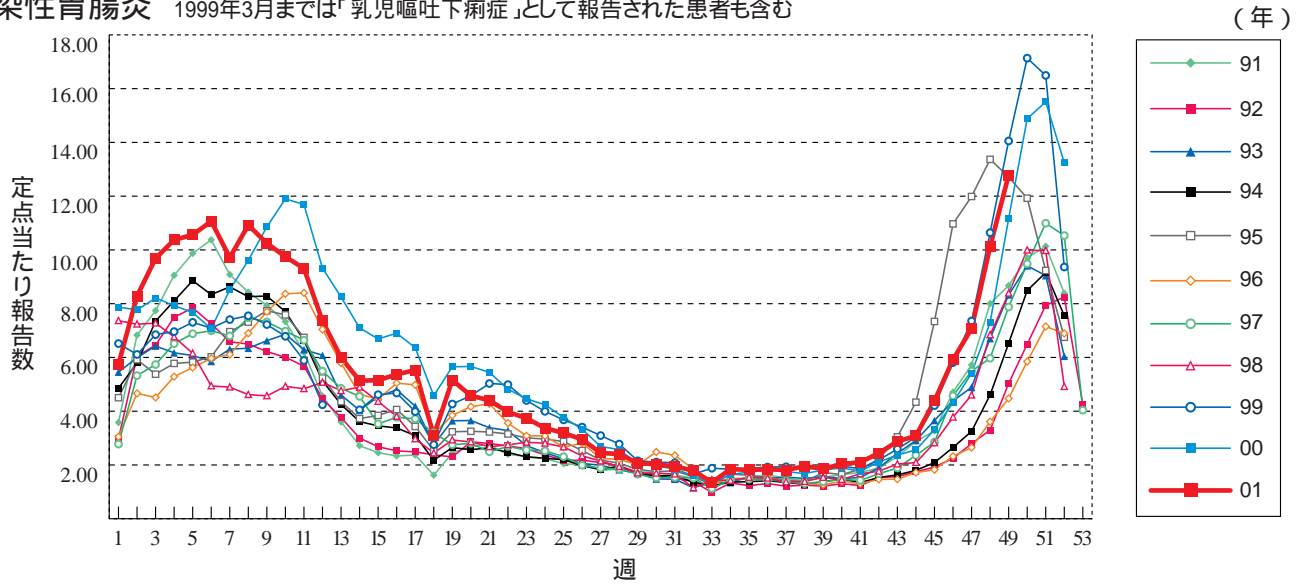
咽頭結膜熱



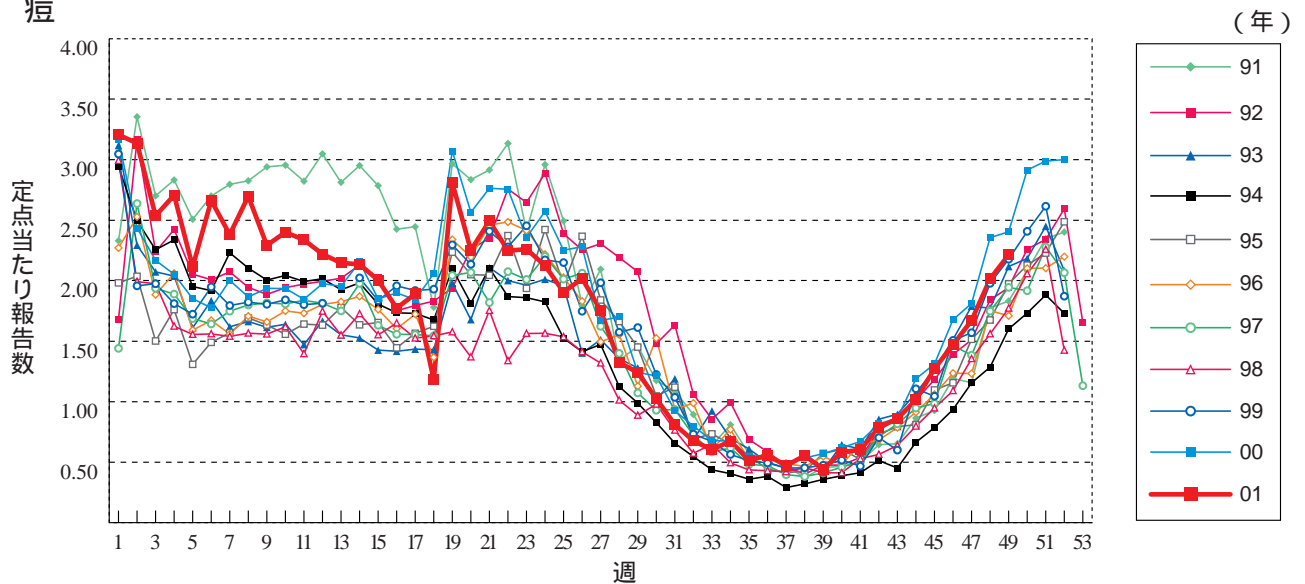
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



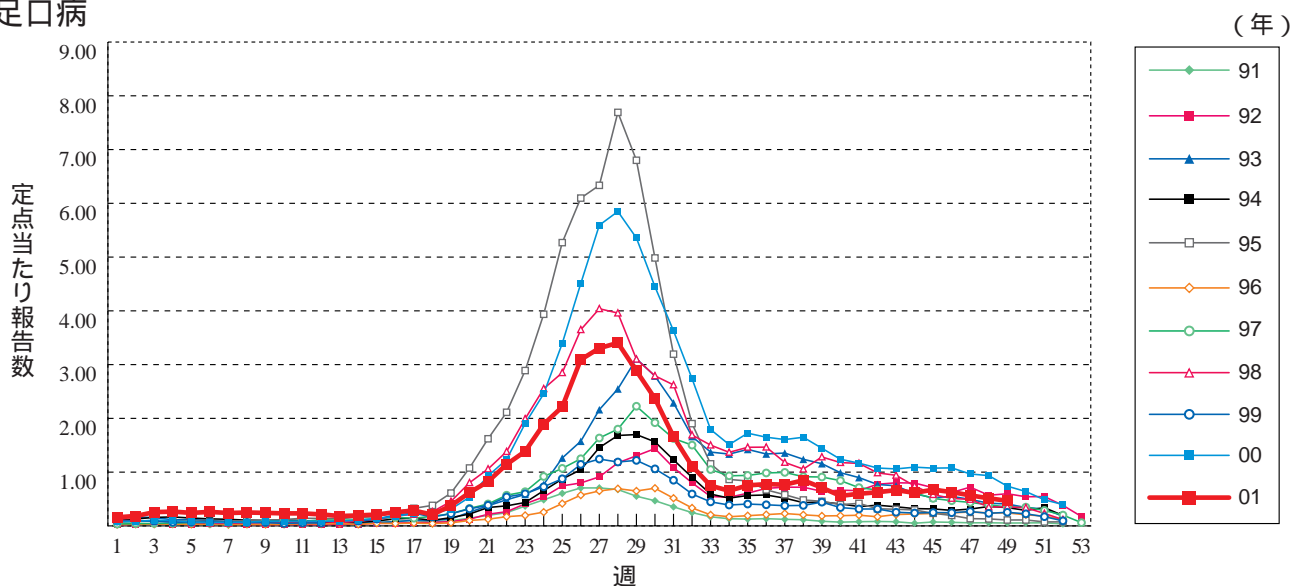
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



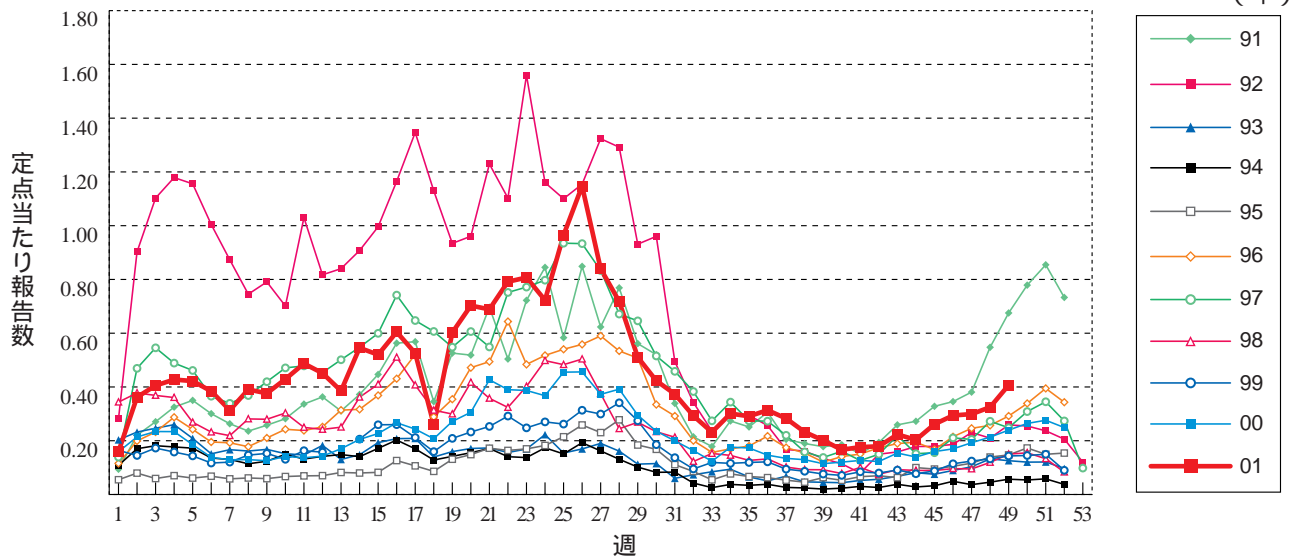
水痘



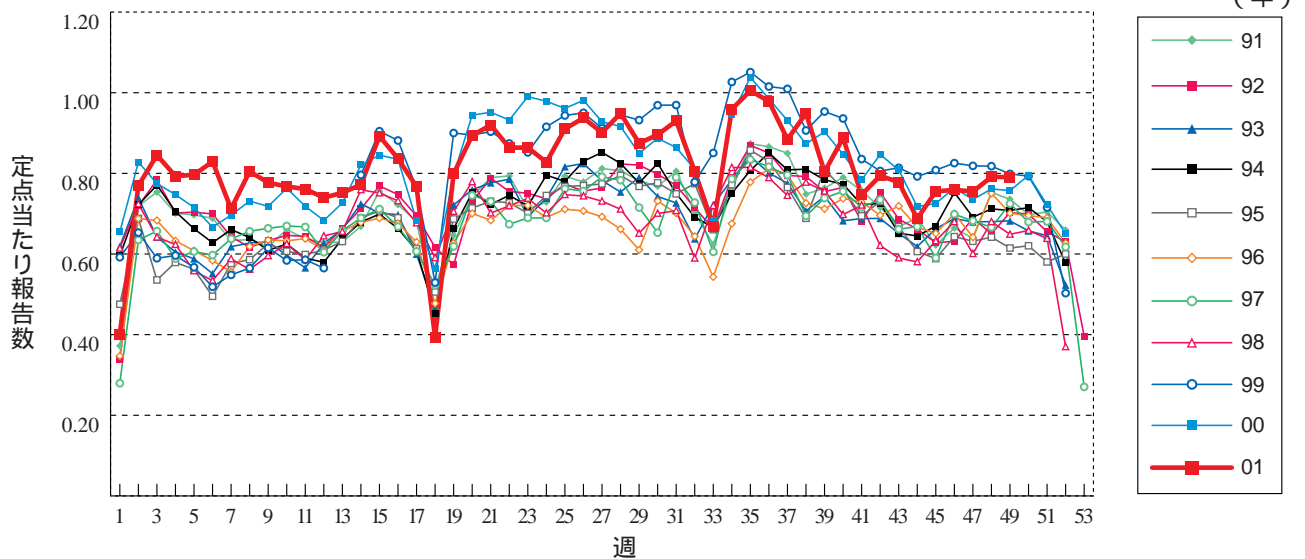
手足口病



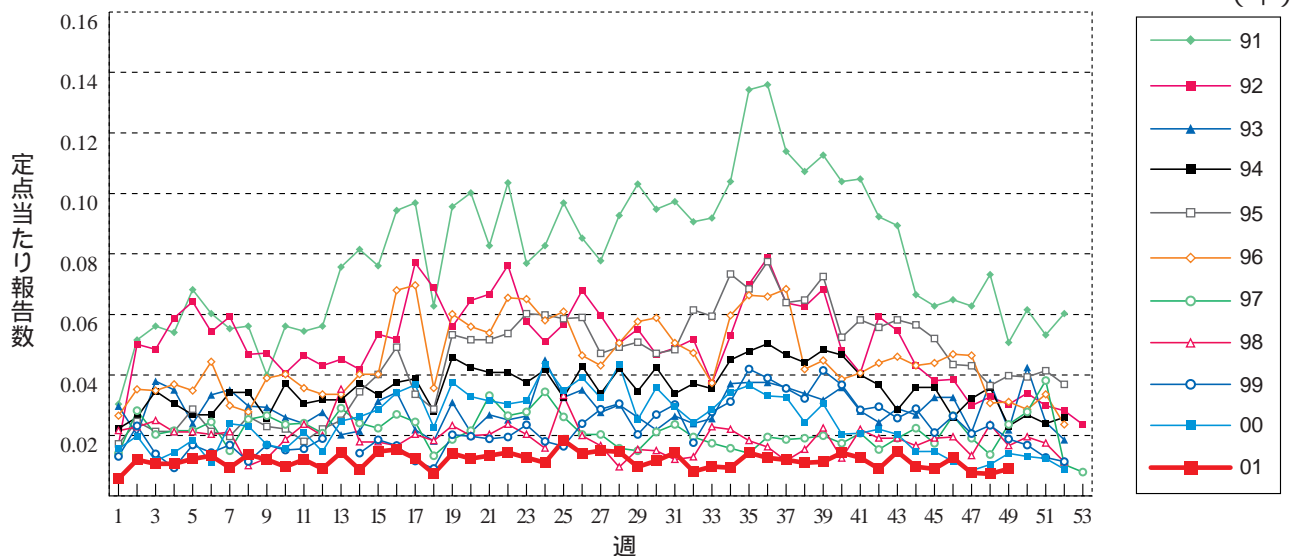
伝染性紅斑



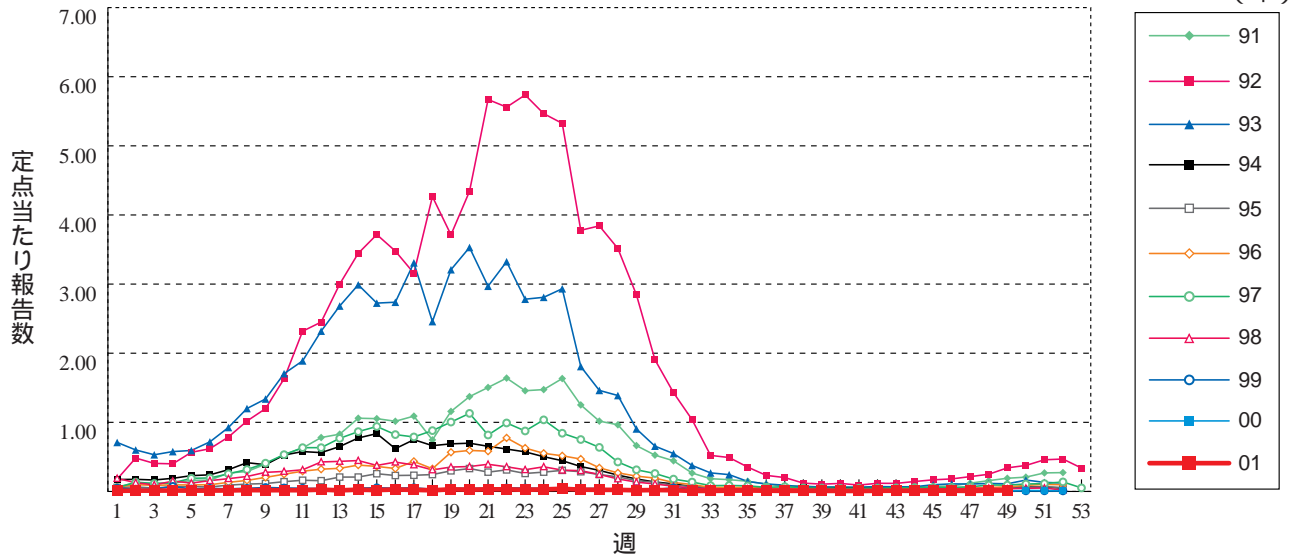
突発性発疹



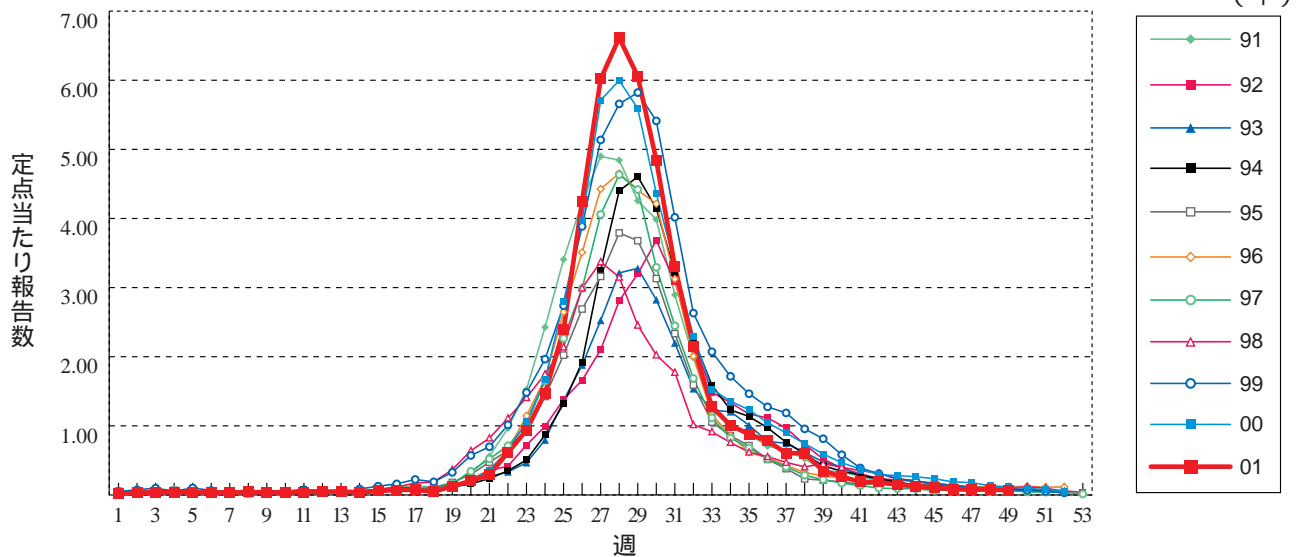
百日咳



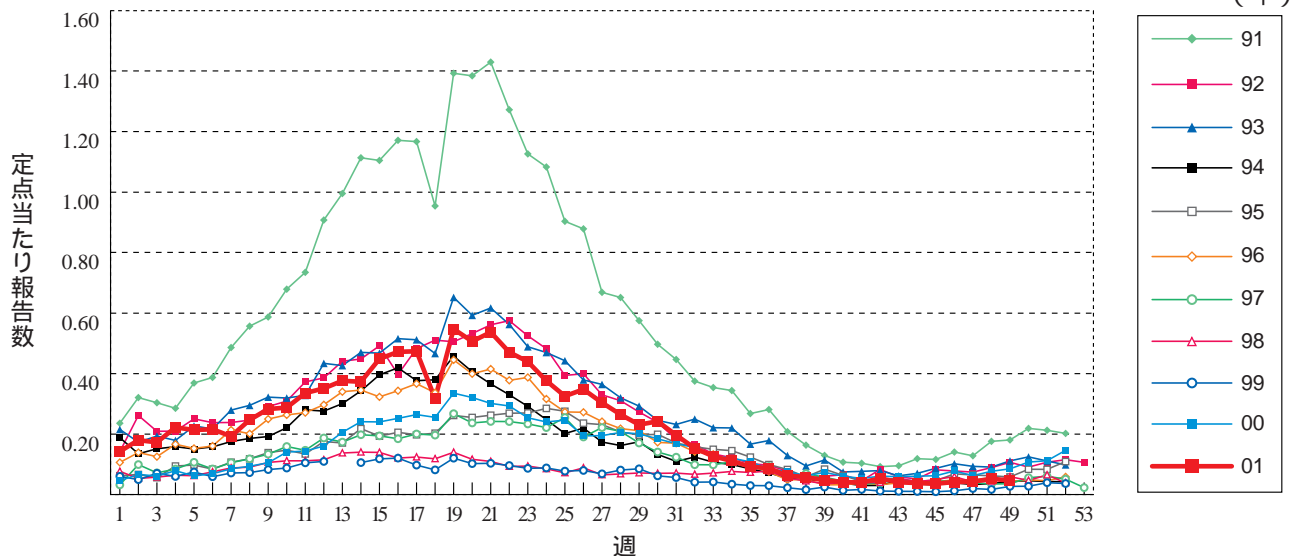
風 疹



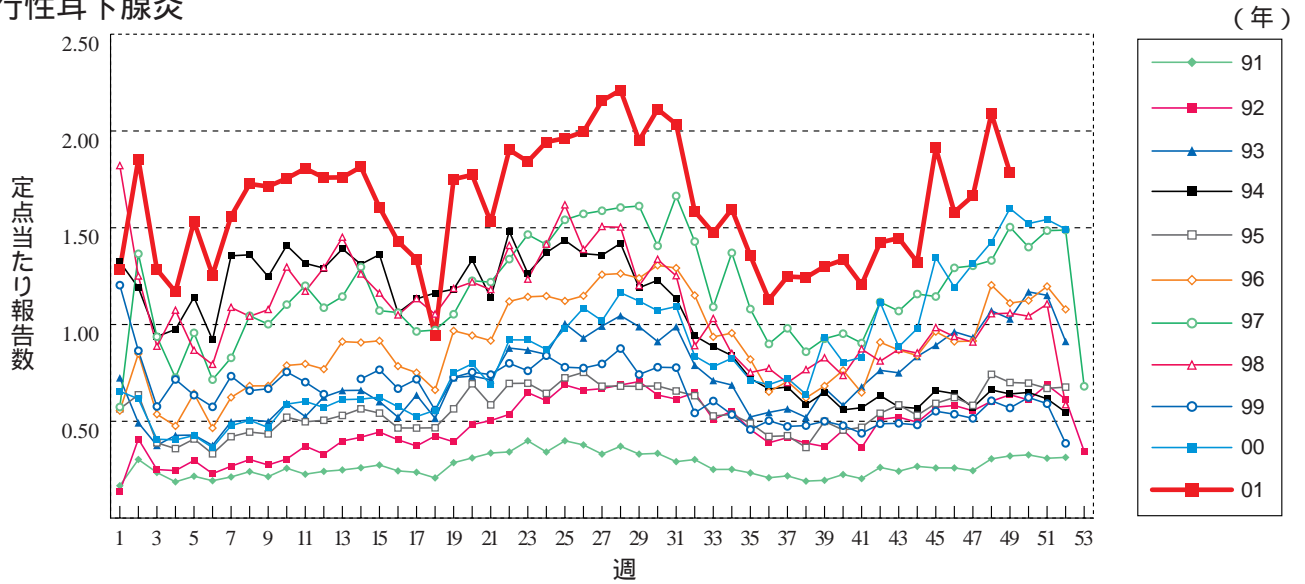
ヘルパンギーナ



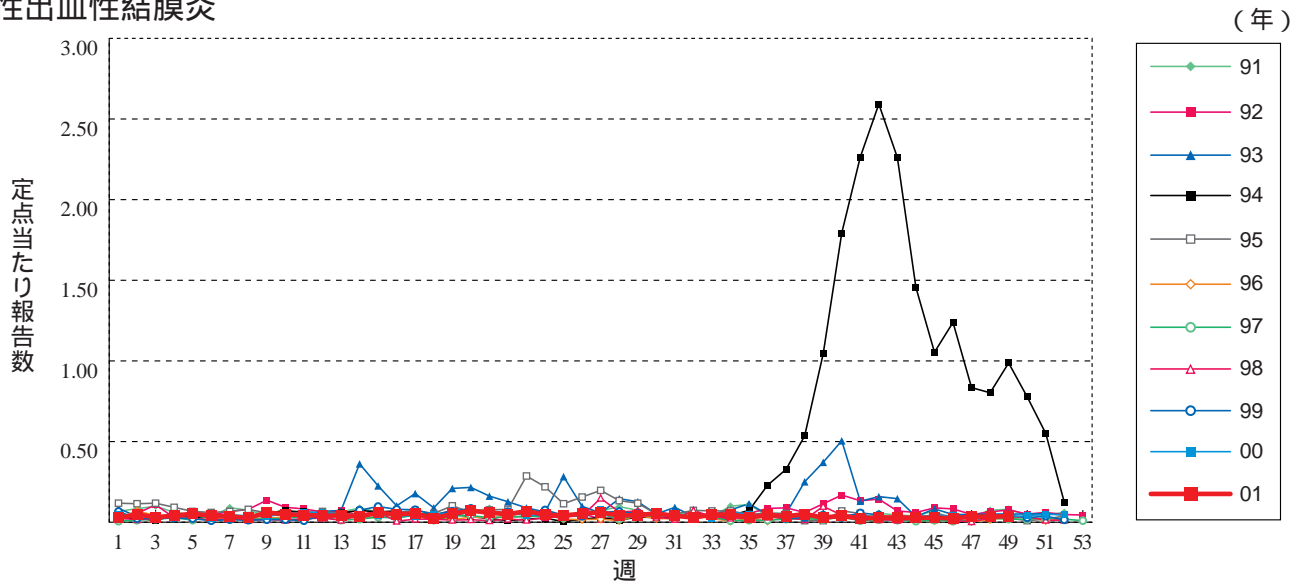
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



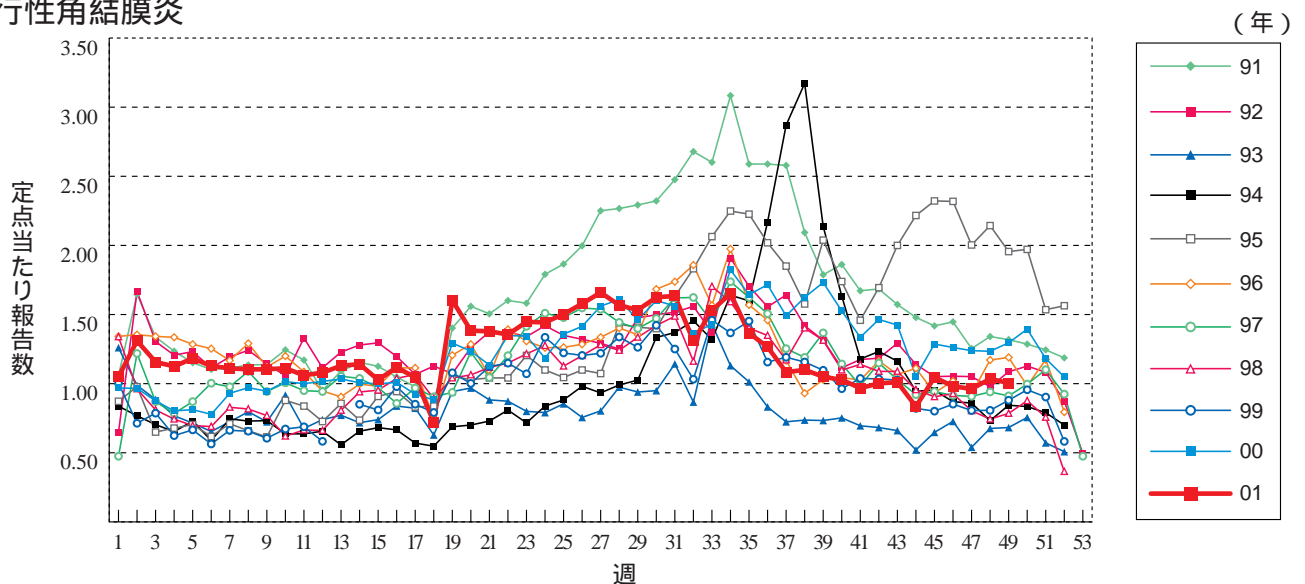
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

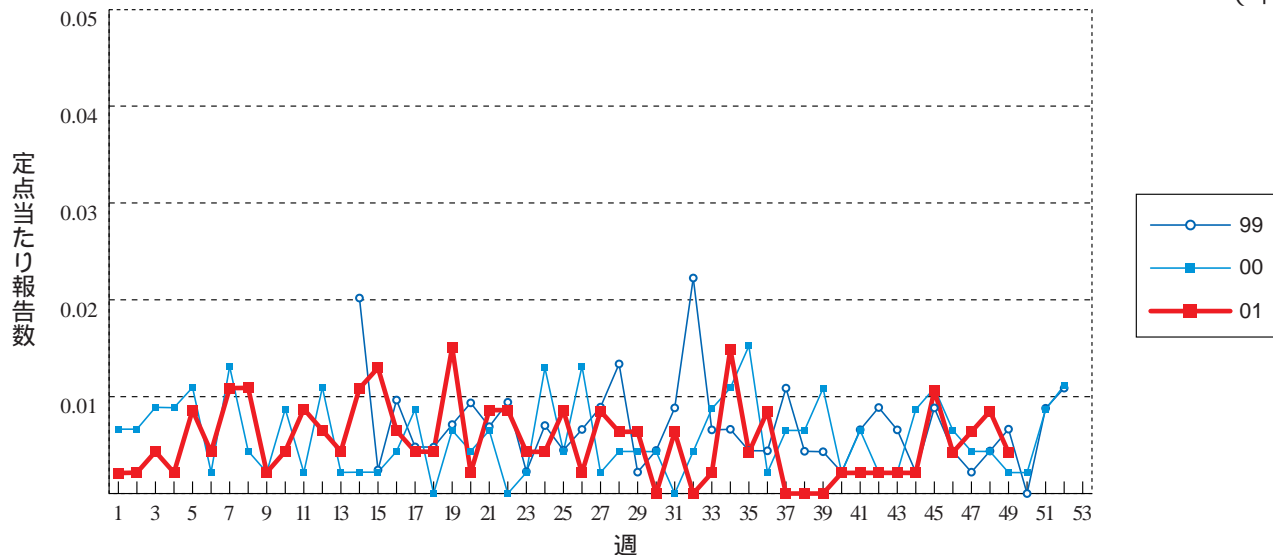


流行性角結膜炎



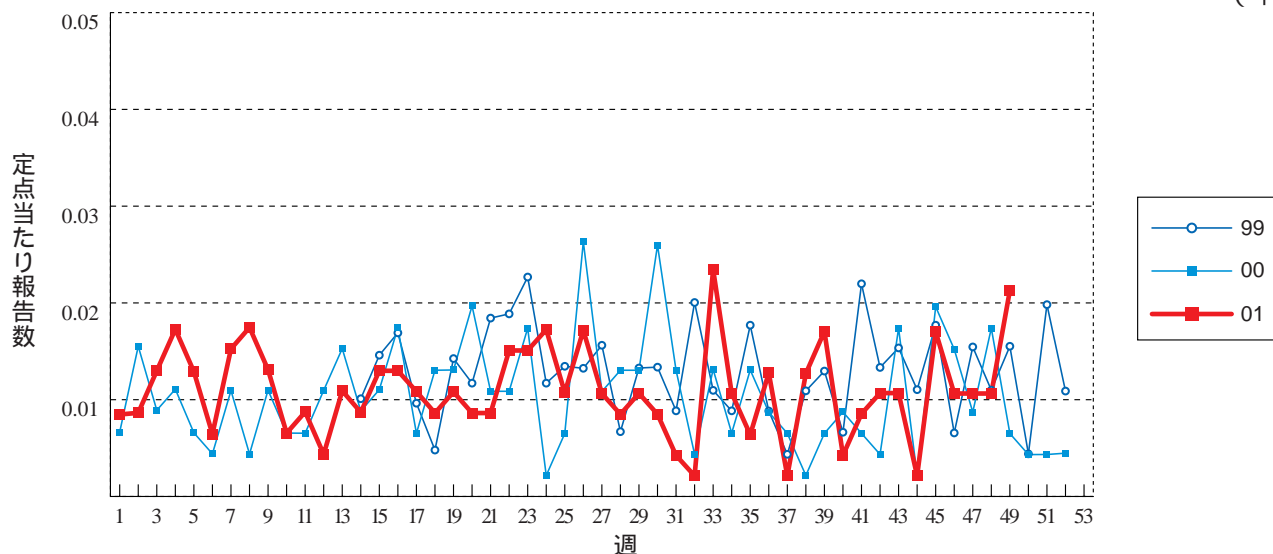
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



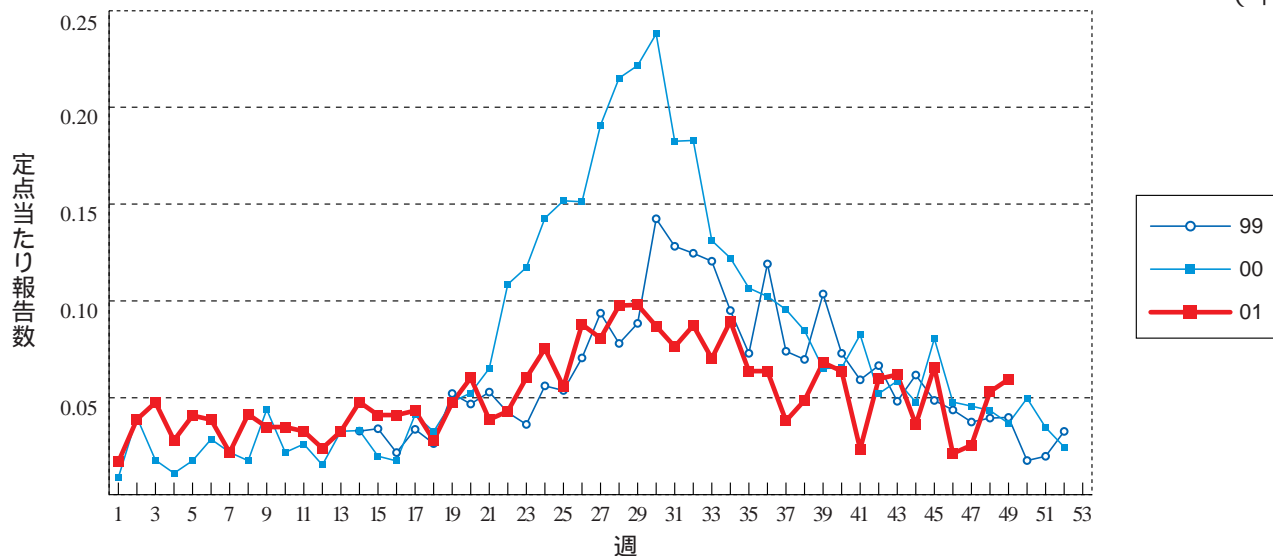
細菌性髄膜炎

(年)



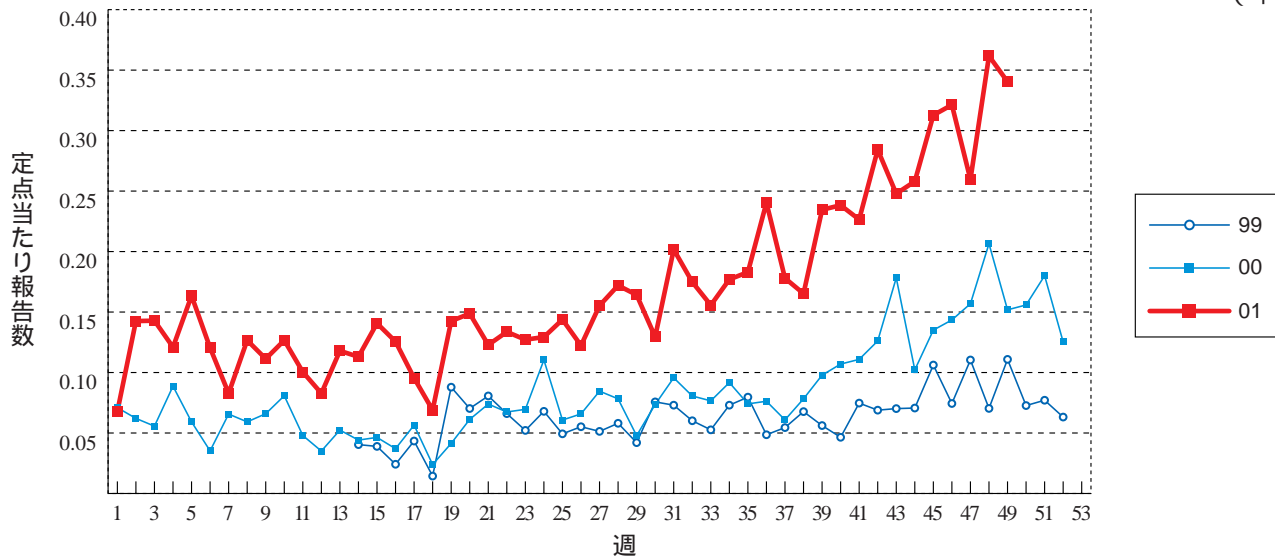
無菌性髄膜炎

(年)



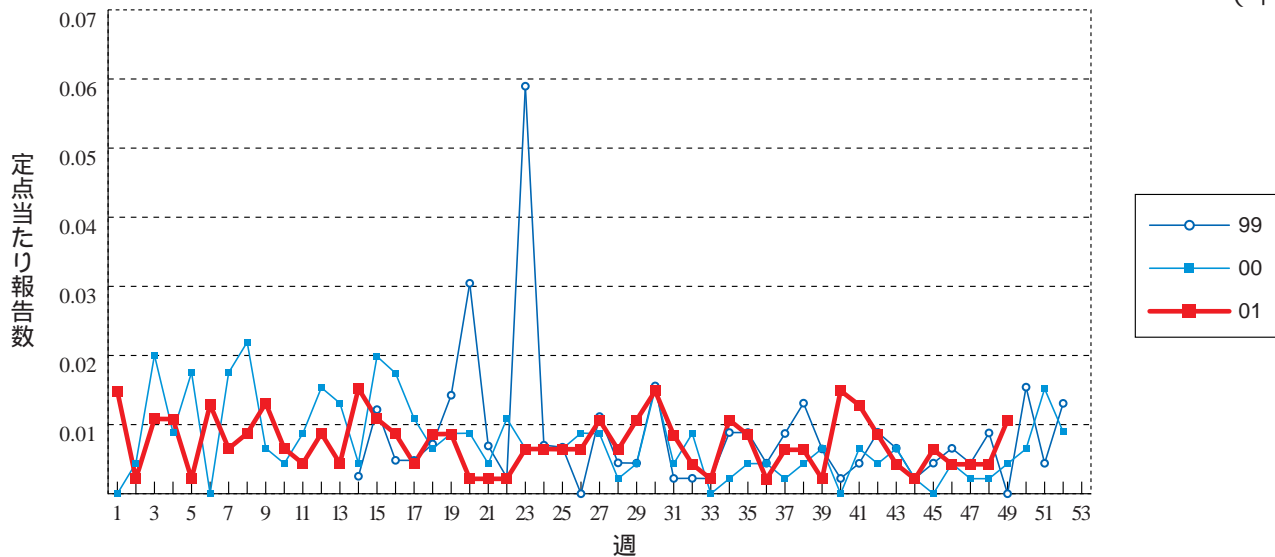
マイコプラズマ肺炎

(年)



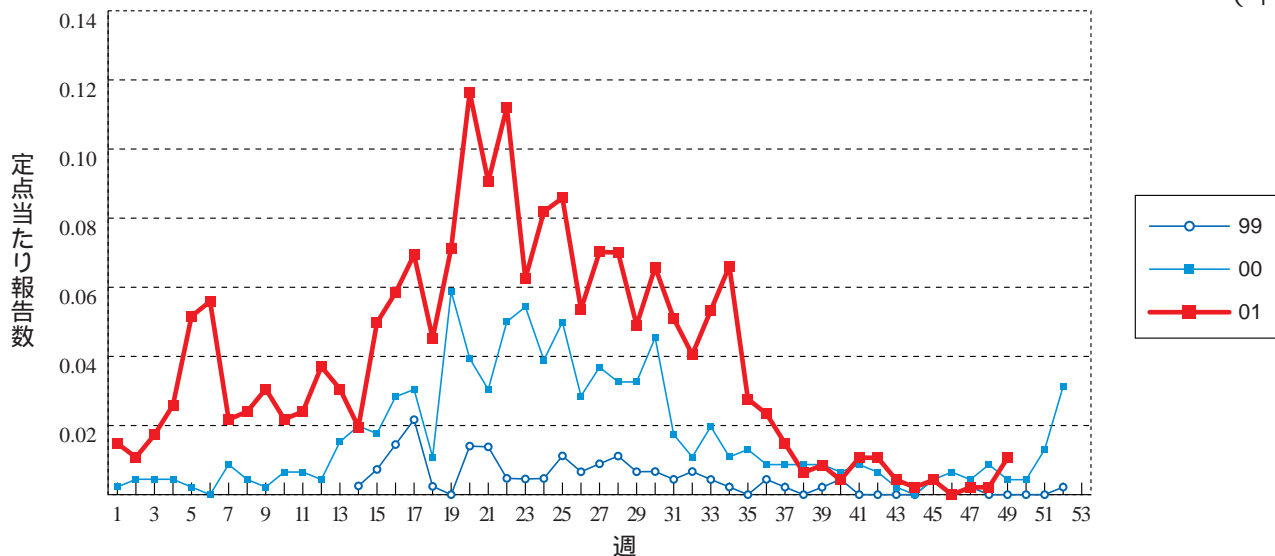
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





49週のデータ

注)表中の報告数は12月14日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年49週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	48	92	681	-	61	-	19
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	24	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	4	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	5	124	-	17	-	14
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	40	-	3	-	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	8	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	15	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	12	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	40	-	6	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	17	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	36	85	-	7	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	31	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	8	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	12	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	2	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	36	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	9	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	11	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年49週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノкокクス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	23	4205	4	391	1	12	-	-	-	29	-	-	5	846
北海道	-	-	-	-	-	154	-	6	1	10	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	45	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	2	80	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	47	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
秋田県	-	-	-	-	-	60	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	1	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福島県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
栃木県	-	-	-	-	-	25	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	86	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
埼玉県	-	-	-	-	-	213	1	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
千葉県	-	-	-	-	-	362	-	20	-	-	-	-	-	1	-	-	-	11
東京都	-	-	-	-	-	306	-	105	-	-	-	-	-	7	-	-	-	137
神奈川県	-	-	-	-	-	264	-	36	-	-	-	-	-	-	-	-	1	54
新潟県	-	-	-	-	-	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	63	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福井県	-	-	-	-	-	60	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
長野県	-	-	-	-	-	59	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
岐阜県	-	-	-	-	-	22	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53
静岡県	-	-	-	-	-	55	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	169	-	16	-	-	-	-	-	5	-	-	-	18
三重県	-	-	-	-	-	80	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	1	44	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	93	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
大阪府	-	-	-	-	-	341	2	58	-	1	-	-	-	4	-	-	1	90
兵庫県	-	-	-	-	1	266	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	1	81
奈良県	-	-	-	-	-	57	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
和歌山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	94	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	78	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	1	31
広島県	-	-	-	-	1	84	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	27
山口県	-	-	-	-	-	47	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
香川県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	51	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	18	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	1	141	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50
佐賀県	-	-	-	-	-	89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	5	90	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	-	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大分県	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
宮崎県	-	-	-	-	2	39	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
鹿児島県	-	-	-	-	9	58	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
沖縄県	-	-	-	-	-	28	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年49週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	27	-	-	-	8	4	122	-	41	12	861	-	1	2	127	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	5	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	2	5	-	1	-	5	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	23	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	-	31	-	-	1	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	4	-	57	-	-	-	2	-	-
東京都	-	7	-	-	-	5	1	9	-	5	5	343	-	-	-	55	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	3	-	6	-	1	-	76	-	-	-	12	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	20	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	3	-	1	1	18	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	6	-	3	-	40	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	15	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	4	82	-	-	-	15	-	-
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	12	-	3	1	19	-	-	1	4	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	2	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年49週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	1	-	-	16	380	1	46	-	38	-	5	-	-	-	519
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
千葉県	-	1	-	-	-	-	1	11	-	3	-	-	-	-	-	-	-	12
東京都	-	2	-	-	-	-	-	8	-	19	-	-	-	-	-	-	-	90
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	6	-	5	-	-	-	-	-	-	-	12
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
富山県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	16
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	104
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	4	-	-	-	-	-	23
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	8	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	12	-	1	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	24
佐賀県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	1	10	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
大分県	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	1	-	1	-	-	7	27	-	-	-	4	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	2	38	-	-	-	8	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年49週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	71	1	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	99	-	14	-	77
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	5	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
東京都	-	3	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	-	3	-	14
神奈川県	-	4	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	2
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
富山県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	1
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
島根県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年49週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	796	0.17	222	0.07	4959	1.64	38604	12.79	6683	2.21	1409	0.47	1229	0.41	2387	0.79	27	0.01
北海道	4	0.02	32	0.22	498	3.43	586	4.04	364	2.51	91	0.63	58	0.40	96	0.66	5	0.03
青森県	6	0.09	-	-	55	1.31	307	7.31	114	2.71	8	0.19	25	0.60	32	0.76	1	0.02
岩手県	5	0.08	2	0.05	39	1.05	301	8.14	133	3.59	4	0.11	9	0.24	15	0.41	-	-
宮城県	9	0.09	11	0.19	118	2.00	928	15.73	141	2.39	60	1.02	28	0.47	57	0.97	-	-
秋田県	1	0.02	5	0.14	84	2.40	308	8.80	58	1.66	10	0.29	79	2.26	17	0.49	1	0.03
山形県	-	-	3	0.10	215	7.17	457	15.23	106	3.53	7	0.23	13	0.43	28	0.93	1	0.03
福島県	-	-	2	0.04	92	1.92	424	8.83	102	2.13	49	1.02	26	0.54	44	0.92	-	-
茨城県	4	0.03	2	0.03	77	1.05	528	7.23	78	1.07	27	0.37	18	0.25	25	0.34	-	-
栃木県	9	0.13	1	0.02	57	1.24	539	11.72	87	1.89	7	0.15	28	0.61	47	1.02	-	-
群馬県	13	0.13	1	0.02	121	1.95	757	12.21	171	2.76	14	0.23	4	0.06	55	0.89	-	-
埼玉県	75	0.29	21	0.13	405	2.56	2681	16.97	375	2.37	40	0.25	46	0.29	157	0.99	1	0.01
千葉県	28	0.15	3	0.02	214	1.69	1566	12.33	360	2.83	60	0.47	70	0.55	102	0.80	-	-
東京都	24	0.13	9	0.06	101	0.71	1398	9.85	204	1.44	29	0.20	33	0.23	65	0.46	1	0.01
神奈川県	125	0.37	18	0.09	309	1.50	3134	15.21	292	1.42	106	0.51	57	0.28	213	1.03	1	0.00
新潟県	2	0.02	15	0.25	157	2.62	842	14.03	226	3.77	120	2.00	18	0.30	55	0.92	-	-
富山県	6	0.13	1	0.03	83	2.86	458	15.79	59	2.03	43	1.48	20	0.69	18	0.62	-	-
石川県	1	0.02	-	-	28	0.97	512	17.66	103	3.55	52	1.79	44	1.52	15	0.52	-	-
福井県	-	-	2	0.09	23	1.05	240	10.91	91	4.14	9	0.41	11	0.50	15	0.68	-	-
山梨県	3	0.07	-	-	22	0.88	143	5.72	82	3.28	2	0.08	7	0.28	6	0.24	-	-
長野県	5	0.06	1	0.02	178	3.30	986	18.26	152	2.81	32	0.59	38	0.70	40	0.74	2	0.04
岐阜県	15	0.20	-	-	68	1.45	478	10.17	108	2.30	20	0.43	28	0.60	32	0.68	1	0.02
静岡県	4	0.03	10	0.12	133	1.55	1347	15.66	160	1.86	57	0.66	18	0.21	81	0.94	-	-
愛知県	39	0.20	11	0.06	271	1.49	1992	10.95	291	1.60	87	0.48	48	0.26	150	0.82	-	-
三重県	1	0.01	1	0.02	48	1.07	879	19.53	108	2.40	16	0.36	61	1.36	42	0.93	-	-
滋賀県	8	0.15	-	-	31	1.00	198	6.39	41	1.32	22	0.71	24	0.77	8	0.26	-	-
京都府	25	0.20	1	0.01	65	0.86	664	8.74	153	2.01	81	1.07	65	0.86	46	0.61	1	0.01
大阪府	99	0.33	17	0.09	139	0.72	2740	14.27	288	1.50	36	0.19	47	0.24	142	0.74	1	0.01
兵庫県	24	0.12	7	0.05	137	1.07	2059	16.09	373	2.91	9	0.07	57	0.45	95	0.74	4	0.03
奈良県	10	0.18	-	-	28	0.80	529	15.11	54	1.54	6	0.17	14	0.40	20	0.57	-	-
和歌山県	4	0.08	-	-	40	1.29	296	9.55	104	3.35	11	0.35	4	0.13	23	0.74	-	-
鳥取県	-	-	1	0.05	64	3.37	245	12.89	81	4.26	16	0.84	7	0.37	16	0.84	-	-
島根県	3	0.08	2	0.09	10	0.43	91	3.96	64	2.78	22	0.96	6	0.26	24	1.04	-	-
岡山県	6	0.07	2	0.04	37	0.69	523	9.69	94	1.74	79	1.46	10	0.19	22	0.41	1	0.02
広島県	-	-	12	0.16	73	0.97	802	10.69	202	2.69	53	0.71	12	0.16	65	0.87	1	0.01
山口県	1	0.02	2	0.04	120	2.45	907	18.51	130	2.65	12	0.24	33	0.67	50	1.02	-	-
徳島県	2	0.05	-	-	12	0.52	203	8.83	23	1.00	10	0.43	4	0.17	15	0.65	-	-
香川県	7	0.14	3	0.09	20	0.63	249	7.78	63	1.97	46	1.44	19	0.59	28	0.88	1	0.03
愛媛県	2	0.03	8	0.21	67	1.72	691	17.72	84	2.15	16	0.41	32	0.82	37	0.95	-	-
高知県	1	0.02	-	-	51	1.65	194	6.26	46	1.48	6	0.19	7	0.23	19	0.61	-	-
福岡県	24	0.13	4	0.04	263	2.50	2330	22.19	325	3.10	11	0.10	25	0.24	129	1.23	1	0.01
佐賀県	6	0.15	1	0.04	48	2.09	252	10.96	88	3.83	1	0.04	3	0.13	33	1.43	-	-
長崎県	3	0.05	-	-	38	0.79	300	6.25	64	1.33	1	0.02	29	0.60	21	0.44	1	0.02
熊本県	4	0.05	3	0.06	133	2.71	1137	23.20	110	2.24	5	0.10	18	0.37	39	0.80	-	-
大分県	29	0.50	1	0.03	52	1.44	918	25.50	82	2.28	2	0.06	12	0.33	41	1.14	-	-
宮崎県	44	0.73	4	0.11	88	2.38	992	26.81	90	2.43	2	0.05	3	0.08	53	1.43	-	-
鹿児島県	107	1.09	3	0.05	44	0.73	457	7.62	122	2.03	6	0.10	9	0.15	47	0.78	2	0.03
沖縄県	8	0.14	-	-	3	0.09	36	1.06	37	1.09	6	0.18	2	0.06	7	0.21	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年49週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	45	0.01	194	0.06	139	0.05	5388	1.78	24	0.04	638	1.00	2	0.00	10	0.02	28	0.06
北海道	1	0.01	4	0.03	44	0.30	186	1.28	-	-	44	1.52	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	4	0.10	11	0.26	70	1.67	1	0.09	30	2.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	3	0.08	38	1.03	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	14	0.24	-	-	118	2.00	4	0.36	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	83	2.37	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	0.03	96	3.20	-	-	11	1.38	-	-	-	-	1	0.10
福島県	1	0.02	2	0.04	1	0.02	114	2.38	1	0.08	15	1.25	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	1	0.01	2	0.03	165	2.26	2	0.13	43	2.69	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	99	2.15	1	0.08	27	2.25	-	-	-	-	2	0.29
群馬県	-	-	4	0.06	1	0.02	58	0.94	-	-	30	2.14	-	-	-	-	-	-
埼玉県	2	0.01	8	0.05	2	0.01	196	1.24	-	-	21	0.58	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	-	-	4	0.03	8	0.06	150	1.18	1	0.03	43	1.30	-	-	-	-	-	-
東京都	2	0.01	4	0.03	-	-	133	0.94	-	-	21	1.50	-	-	-	-	-	-
神奈川県	3	0.01	3	0.01	-	-	264	1.28	1	0.02	52	1.24	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	1	0.02	4	0.07	-	-	174	2.90	-	-	4	0.44	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	4	0.14	1	0.03	137	4.72	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	1	0.03	-	-	223	7.69	-	-	-	-	-	-	1	0.20	1	0.20
福井県	-	-	2	0.09	-	-	16	0.73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	44	1.76	-	-	3	1.00	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	6	0.11	-	-	342	6.33	3	0.30	8	0.80	-	-	-	-	4	0.36
岐阜県	1	0.02	2	0.04	1	0.02	115	2.45	-	-	12	1.09	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	16	0.19	180	2.09	-	-	18	0.90	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	0.01	4	0.02	18	0.10	259	1.42	-	-	14	0.40	-	-	1	0.08	-	-
三重県	1	0.02	1	0.02	-	-	75	1.67	-	-	8	0.67	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	1	0.03	-	-	4	0.13	23	0.74	1	0.14	1	0.14	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	90	1.18	-	-	8	0.44	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	1	0.01	17	0.09	8	0.04	182	0.95	-	-	24	0.46	-	-	-	-	4	0.33
兵庫県	5	0.04	2	0.02	-	-	128	1.00	-	-	12	0.34	-	-	2	0.14	-	-
奈良県	-	-	-	-	3	0.09	44	1.26	1	0.11	6	0.67	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.03	2	0.06	4	0.13	54	1.74	-	-	1	0.25	1	0.09	1	0.09	1	0.09
鳥取県	-	-	1	0.05	1	0.05	13	0.68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	1	0.04	-	-	36	1.57	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	1	0.02	-	-	73	1.35	-	-	5	0.42	-	-	-	-	-	-
広島県	2	0.03	5	0.07	-	-	102	1.36	1	0.05	23	1.15	1	0.05	1	0.05	4	0.19
山口県	-	-	11	0.22	-	-	31	0.63	-	-	8	0.89	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	1	0.04	72	3.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	51	1.59	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	9	0.23	-	-	158	4.05	-	-	9	1.29	-	-	-	-	1	0.17
高知県	1	0.03	6	0.19	-	-	7	0.23	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
福岡県	13	0.12	31	0.30	2	0.02	249	2.37	-	-	47	1.96	-	-	1	0.07	-	-
佐賀県	-	-	15	0.65	1	0.04	77	3.35	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	2	0.04	3	0.06	29	0.60	7	0.70	17	1.70	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	8	0.16	-	-	61	1.24	-	-	16	1.78	-	-	3	0.20	-	-
大分県	-	-	2	0.06	2	0.06	64	1.78	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.05	3	0.08	1	0.03	113	3.05	-	-	14	3.50	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	2	0.03	5	0.08	-	-	182	3.03	-	-	6	1.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	-	-	-	-	214	6.29	-	-	7	0.70	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年49週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	160	0.34	5	0.01	5	0.01
北海道	5	0.22	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	14	1.17	-	-	-	-
秋田県	13	1.86	-	-	-	-
山形県	6	0.60	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.11	1	0.11	-	-
千葉県	2	0.15	1	0.08	-	-
東京都	-	-	-	-	3	0.12
神奈川県	4	0.36	-	-	-	-
新潟県	8	0.62	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	4	0.67	-	-	-	-
山梨県	7	0.70	1	0.10	-	-
長野県	6	0.55	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	4	0.50	1	0.13	-	-
愛知県	7	0.54	-	-	1	0.08
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	2	0.17	1	0.08	-	-
兵庫県	6	0.43	-	-	-	-
奈良県	2	0.33	-	-	-	-
和歌山県	2	0.18	-	-	-	-
鳥取県	3	0.60	-	-	-	-
島根県	6	0.75	-	-	-	-
岡山県	3	0.60	-	-	-	-
広島県	12	0.57	-	-	-	-
山口県	1	0.11	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	11	1.38	-	-	1	0.13
福岡県	7	0.47	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	7	0.47	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	3	0.43	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第49号 平成13年12月21日発行
 発行：国立感染症研究所
 厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部
 事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129
 U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 <国立感染症研究所 感染症情報センター>
<http://www.mhlw.go.jp/>
 <厚生労働省>
<http://www.forth.go.jp/>
 <旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。